



YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

世界へのプレゼントになろう

「世界へのプレゼントになろう」 *Be a gift to the world*

2015-16年度 RI会長/K.R.“ラビ”ラビンドラン RI/D2590ガバナー/箕田 敏彦 横浜旭RC会長/新川 尚

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2 後藤ビル2F

TEL.045-365-3273

FAX.045-365-3132

Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

〒241-0821

例会場 二俣川相鉄ライフ4Fコミュニティサロン

例会日 毎週水曜日/12時30分～1時30分



2015年10月28日 第2218回例会 VOL. 47 No. 16

- 司 会 副SAA 後藤 英則
- 開会点鐘 会 長 新川 尚
- 齊 唱 それでこそロータリー
SL 太田 勝典

■出席報告

会 員 数	32名	本日の出席数	21名
本日の出席率	80.77%	修正出席率	96.30%

■本日の欠席者

佐藤 (真)、関口、鈴木、松本、増田

■他クラブ出席者

斉藤 (横浜瀬谷 RC)、鈴木 (横浜磯子 RC)

増田 (東京銀座新 RC)

■ゲスト

浦崎様、石井様

(横浜市旭区福祉保健センター、こども家庭支援課)

■会長報告

皆様こんにちは、朝晩は冷えるようになってきました。体調には十分ご注意頂きたいと思えます。

先々週の例会に横浜東ローターアクトクラブ会長の宮澤さんが見えになりましたが、その際にお話していましたローターアクトクラブ例会のご案内が届いております。

日時 11月4日(水)午後8時～、

場所 ホテルキャメロットジャパン

内容は、以前当クラブでも卓話をしていただいた、私の義父による普段着ているスー

ツの正しい着方、自分に合ったスーツ選び、スーツの普段の手入れなど意外と知らない、でも知っておくべきスーツについての卓話となっております。登録料はRC3,000円、ゲスト(30歳以上)3,000円、(30歳未満)1,500円です。ご興味のある方は私までご連絡下さい。

○地区関係

1) クラブ奉仕委員長会議

日時 11月17日(火)午後3時～

場所 メモワールプラザソシア 21

福村委員長、ご出席をお願いします。

2) クラブ国際奉仕委員長会議

日時 11月27日(金)午後3時～

場所 メモワールプラザソシア 21

漆原委員長、ご出席をお願いします。

3) クラブ職業奉仕委員長会議

日時 12月8日(土)午後3時～

場所 メモワールプラザソシア 21

鈴木委員長、ご出席をお願いします。

○クラブ関係

1) 第10回理事会

日時 11月4日(水)午後6時30分

場所 事務所

2) クリスマス例会

日時 12月19日(土)

場所 KKR ポートビル横浜

■親睦委員会

北澤 正浩

○この指企画のご案内

川崎競馬場ナイトレース観戦

日時 11月16日(月)午後5時から9時頃

*最終レース終了予定時間は8時50分頃

集合時間 午後5時

集合場所 JR川崎駅改札口前時計台の下

参加費 2,000円 当日集金

ビール、焼酎、ソフトドリンク、おつまみは用意します。夕食に関しては各自でお願いします。競馬場内にも食堂があり、出前をとることも可能です。

ご家族、ご友人を誘ってのご参加お待ちしております。

■研修・広報委員会報告 市川 慎二

日時 10月21日

第4グループ テーマ「ロータリー財団月間」

参加者(敬称略)

新川、安藤(公)、五十嵐、市川

国際ロータリーのロータリー財団は、1917年に基金として発足し、1928年、国際大会でロータリー財団と名づけられた。1931年に信託組織となり、1983年に米国イリノイ州の法令の下に非営利財団法人となった。

ロータリー財団は、財団の法人設立定款と細則に従って、ロータリー財団管理委員会が慈善的、教育的目的のためにのみ運営するものとする。(2013年手続要覧より)

- ・ロータリーは国際的な組織である
 - ・ロータリーは社会奉仕を謳っている
 - ・個人で出来る国際奉仕には限界がある
- そこで国際的な奉仕は共同で行う
(寄付金はその資金)

私達はそのお金を使って、身近な所から世界までの奉仕活動をしている。ロータリー財団があるからこそ、ロータリークラブの存在が、ポリオ撲滅・発展途上国への救援活動・国際親善奨学金・地区資金より各クラブへの補助等を通じて世界に認知されている。

要するに、国際ロータリーの中で最も重要な役割を果たすのがロータリー財団である。財団を理解するには、やはりお金の流れを知ることが大切である。

そんな中、皆様もご存じの様に2017年にロータリー財団は100周年を迎え、財団を今の時代にあったものに変えようと2013-2014年度から未来の夢計画がスタートしました。

これまでのロータリー財団は、プログラムの数が多く、使い勝手が悪かったり、複雑で解りにくいとの意見が多くあったからです。

自らがプロジェクトに携わらないと分りづらいものがありますが、当クラブにおいても、昨年ではチャリコンで65万円、岩沼でのクリスマスプレゼントで24万円、来年では、被災地への高校生視察で35万円と、以前より補助金が非常に使いやすくなっております。

つまり財団への寄付は、他の寄付とは違い、財団を利用すれば、我々のクラブにも戻り活動の資金になっている訳です。財団をツールのように捉えて利用していければ、財団への理解にも大きく繋がっていくので、今後は補助金を利用できる地域のニーズを捉え、案件を探していくことも必要ではないかとまとまりました。

間もなく財団月間となります。間違いなく、寄付のお願いがやって参ります。支払っていないと減額される場合もございますので、是非、会員皆様にご理解を頂き、ご寄付のご協力を頂ければと思います。

■情報集会報告 Cグループ 福村 正 出席者(敬称略)

太田(勝)、関口、後藤、滝澤、福村

1) 横浜旭RCの強みと弱み

○強み

- ・例会のマナーが素晴らしい
 - ・奉仕活動のバランスがとれている
- チャリティーコンサート、岩沼RCと提携、学生の活動支援等多層的奉仕活動を展開している

○弱み

- ・会員全体の高齢化とそれに伴う活力の低下
 - ・資金力が乏しい
 - ・年会費28万円の負担
- ### 2) 会員増強について
- ・体験例会は有効な啓発活動
 - 今後継続を期待
 - ・全員が一丸となり会員獲得を目指す
 - 会長は率先して新入会員を入れなければならない
 - ・全会員が楽しめる例会や奉仕活動を期待
 - ・増強委員の負担は単年だが活動を継続的に行うには会員のグループを作り活動する方法はいかがか
 - ・会員増強の為の議論で終結ではなく実践が求められる
 - ・Eクラブはよくわからないので、ツールとしての有効性の認識はいまひとつ、face to faceを大切にしたい

■若者のセミナー開催について

旭区役所子ども家庭支援課より



「若者の今を知る・未来を考える@旭区」
セミナーの開催について

1) 趣旨

横浜市では、若者自立支援機関（青少年相談センター、地域ユースプラザ等）において、ひきこもり等の困難を抱える若者を対象とした相談事業を実施し支援を進めていますが、地域における若者の見守りや社会参加を支援できる環境づくりが課題となっています。

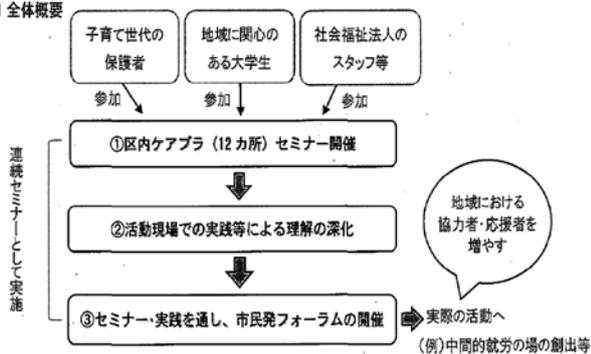
そこで、一般市民や企業等を対象に、若者の抱える困難について知り、地域の協力者・応援者を増やすことを目的に、モデル事業を横浜市子ども青少年局、旭区役所、西部ユースプラザの協働事業として実施しています。

この度、事業の一環として、区内の全地域ケアプラザにおいて、セミナーを開催します。

2) 旭区における取組内容

①全体概要

(1) 全体概要



②セミナーの開催

表題：

若者の今を知る・未来を考えるセミナー@旭区

対象：

区内に在住・在勤で、若者を含めた地域課題に関心のある方

開催日：

平成 27 年 11/2 ～ 26 のうち、9 日間 (12 回)
各回 1 時間半程度

場所：区内地域ケアプラザ（全 12 カ所）

内容：

- ・若者に関する全般的な現代社会状況と課題を知る（本市や旭区内での実態）
不登校、ひきこもり、困窮、就労時や就労後の実態、精神疾患等医療的課題など多様化している困難性の実態を知る
- ・社会的な資源を知る
国や横浜市の施策と役割、若者の支援に活用できる関係機関や地域資源とその役割や制度等を学ぶ

■ニコニコ BOX (会員敬称略)

新川 尚／安藤公一会員、ラグビーの話、楽しみです。宜しくお願いします。

市川 慎二／安藤公一さん、ラグビーのこと無知なので教えて下さい。楽しみです。

安藤 公一／今日は現在、ワールドカップ開催中のラグビーの話をして頂きます。宜しくお願いします。

青木 邦弘／今日の卓話、安藤さんに無理なお願いをしました。よろしくお願いします。トップリーグ、ヤマハの開幕戦チケット完売だそうです。

斉藤 善孝／安藤さん、本日の卓話楽しみです。

太田 勝典／①安藤公一様、本日の卓話ありがとうございます。楽しみにしています。②福村さん、情報集会ご苦労様でした。

吉原 則光／安藤さんの卓話楽しみです。よろしくお願いします。

二宮 登／安藤さん、卓話楽しみにしています。

漆原恵利子／①安藤さん、卓話楽しみです。②旭区からのお知らせの若者支援のセミナー我が法人が運営している今宿地域ケアプラザをかわ切りに区内全ケアプラザで行われる予定です。若者支援について関心を寄せるきっかけになれば、と期待しています。

杉山 雅彦／①安藤会員、卓話楽しみにしています。② 10/14、旭警察の協力を得て、鶴ヶ峯支店で防犯訓練を実施しました。本日のタウンニュースに載っています。ご一読いただければと思います。

北澤 正浩／安藤公一さん、卓話たのしみしております。

■卓話「ラグビーの基礎知識」

より楽しく観戦する為に 安藤 公一



エディーとフィリップとシゲオ
～ジャパンの快挙の根拠～

サッカー史の大御所、ブライアン・グランヴィルの『ワールドカップ・ストーリー』（新紀元社）にこんな一節がある。「ミドルズブラ、北朝鮮との試合、イタリアにとって究極のトラウマである」

1966年、ワールドカップW杯のイングランド大会、かの地で、優勝候補のイタリアは、ミステリアスな北朝鮮にまさかの敗北を喫する。1-0。あれから49年、いまなおフットボールの歴史から消えることなき「世紀の番狂わせ」である。帰国後、イタリアの選手たちがスタジアムに登場するたびに「コ・リ・ア！」という「あざけりの声」がこだました。

「ブライトン、日本との試合、南アフリカにとって究極のトラウマである」

ラグビーのW杯、こちらもイングランド大会、かの地で驚愕の事態は発生した。34-32。スコアだけ耳にしたら、地球上のひとり残らず、えっ、スプリングボックスがジャパンにそんなに苦しんだのか、と反応したはずだ。そうではなく負けた。

異なる種類のフットボールの異なる時代の出来事を並べた。ふたつの金星には共通の根拠が存在するからだ。すなわち「ファナティックなキャンプ」。狂信的なまでの合宿。前掲書より古いエディションの一冊には以下のくだりがあった。英語で目にした昔の記憶なので正確な引用ではないが、確か、こんな表現だった。

「北朝鮮は、3年にわたり、ピョンヤン郊外でファナティックなキャンプを行ない…」これだ。これしかないのだ。極東の民が、西洋列強とフットボールのような集団球技で対抗しながら機をとらえて白星をたぐり寄せるには。北朝鮮は、おそるべきスタミナと機械のごとき連係を身につけていた。イタリア戦では、前後半、こっそり選手を入れ替えているのでは、との疑惑まで浮上する。東洋人の風貌がみな似て映るという偏見とともに語り継がれる「伝説」である。

ラグビーの日本代表は、エディー・ジョーンズHC（ヘッドコーチ）の信念と実行力と計画策定能力による「原則固定メンバーの長期拘束・長時間練習」を宮崎で敢行した。

本年は約160日、これは南アフリカのざっと2倍に相当する。6月のトレーニングの回数は「91」にもおよんだ。国際ラグビーのトップに位置する相手を上回るフィットネス、反復ゆえのスクラムとラインアウトの精度の高さ、細かなパスにエラーのない連動の確かさ。ジャパンには実力があつた。

開幕前の8月25日、ジョーンズHCの大会終了後の退任が発表され、いささかファナティックな気性（だから強くもする）の指導者との関係の「終わり」がわかって、長き重圧に疲弊していたチームに活力が戻った。真剣なスポーツの最前線ではありうる現象だ。本大会での戦い方には、組織ディフェンスに国内王者パナソニックのシステム、よくトライにつながったモールには東芝の方法の影響がおそらくあつた。選手たちが前に出てきたのだ。南アフリカ戦の有名な最後の場面、ジョーンズHCの「3点（PGで引き分けを狙え）」の叫びに従わず、リーチマイケル主将が逆転のスクラムを選んだのも象徴だろう。

ただ、そうした事象をもって「選手が監督（HC）を超えた」とばかり評価するのはアンフェアだ。13年前のサッカーの日韓W杯期間中、日本代表のフィリップ・トルシエ監督のほとんど妄信する「フラットスリー」に、選手の側から調整が施された。極度の「前へ」を中庸に近づけたのである。あのときも「選

手の自主性で勝ったのだ」との言論はそれなりに盛んだった。しかし、こちらも少しばかりファナティックな性格で知られたフランス人が、徹底的に「前へ」を仕込んでいたから、その「前」をちょっとだけ後方に置き換えられたのである。今回のラグビーのジャパンにもあてはまると思う。

○ラグビーとは

ラグビーのルールは本当に難しいのですが、基本さえ理解しておけば、先ず観戦は楽しめます。

先ず、ラグビーの基本概念。“ラグビーは陣取りゲーム”だということです。

1つのボールを2チームの選手が奪い合い、ボールを持って敵地に攻め入るのです。こうして攻め入り、目指す先は敵地のインゴールと呼ばれるスペース。このスペースにボールをタッチさせることにより得点が認められます。この得点をトライと言います。両チームの選手達は、このトライを得るために、お互い体をぶつけ合い、ボールを奪い合って攻防を繰り返すのです。

それでは次にボールの扱い方です。ボールは、持って走ること、手で放る（パス）こと、足で蹴る（キック）ことが認められています。また、全身のどこにボールが触れても問題はありません。

ただ、このボールの放り方に大きな特徴があります。それは、ボールを前に放ってはいけない、ということです。ボールを放る場合は、自分より後ろにいるプレーヤーにしか放れないのです。

また、得点には、トライ以外にもキックで得られるものがあります。これは、ゴールポストの間のクロスバーより上の空間にボールを蹴り通すことにより認められます。このキックを「ゴールキック」と言います。

○得点の種類

上述しました通り、ラグビーの得点には大きく分けて「トライ」と「ゴールキック」の2種類があります。

トライは2種類、ゴールキックには3種類あり、それぞれ得られる得点も違います。以

下にその得点をまとめました。

得点の種類	方法	得点
トライ	敵地のインゴールと呼ばれるスペースにボールを着地させることにより認められます。このボールの着地は、ボールを持ち込んだプレーヤーがボールに触れた状態でないと認められません。例えば、ボールが転がってインゴール内に入ってもトライになりません。このボールをとらえ、地面に触れさせた時点でトライと認められます。	5点
ペナルティトライ	相手チームの反則がなければ、ほぼ間違いなくトライが得られていた、と認められた時に与えられるトライです。	5点
コンバージョンゴール	トライを決めた後、トライした側のチームがゴールキックを成功させた場合に認められます。	2点
ペナルティゴール	相手チームの反則に対して得られるキックで、そのキックでゴールキックを成功させた場合に認められます。	3点
ドロップゴール	通常のプレー中に、ドロップキック(ボールを地面に落とし、跳ね返ったボールを蹴ること)でゴールキックを成功させた場合に認められます。	3点

○競技時間

ラグビーでは、1つのプレーに勝てば1つのポイントが得られます。このポイントの数え方は以下のようになっています。

ラグビーは前後半のハーフ制で、行われます。前後半はそれぞれ40分で、その間に10分以内のハーフタイムが設けられています。(高校生では30分ハーフ/ハーフタイム5分以内) それぞれのハーフには、選手のケガや故障などで、プレーが止まっていた時間をロスタイムとして加算します。普通は1～3分程度のロスタイムが加算されます。また、ラグビーには基本的には延長戦はなく、同一得点の場合は引き分けとなりますが、抽選、トライ数などで勝敗を決める場合もあります。

○競技人数

1チーム15人、両チーム合わせて30人でラグビーは行われます。(7人で行うラグビーもあります) ゲームに同時に出られるのは1チーム15人ですが、プレーヤーがケガや故障をした場合、戦術的な理由によりプレーヤーを入れ替えることができます。この交代要員としては8名がそれぞれ認められています。つまり15人+8人、合計23人まで最大でメンバーを揃えることが出来ます。なお、一旦試合から出たプレーヤーは、基本的にはゲームに再出場することは出来ません。

○プレーヤーのポジション

ラグビーは15人それぞれにポジションが決まっています。この15人のポジションは、フォ

ワード (FW) と呼ばれる 8 人と、バックス (BK) と呼ばれる 7 人に大きく分けられます。

フォワードは主に攻撃を担う選手達です。スクラムを組んだりするのはこの選手達で、相手チームとの激しい肉体のぶつかり合いに負けない、屈強な肉体が求められます。この 8 人には「体が大きい」「体重が重い」「力が強い」といった能力が求められます。

バックスはフォワードから出されたボールを実際の得点に結びつけるポジションです。また、相手チームの攻撃を最終的に防ぐ「最後の砦」にもなります。この 7 人には「足が速い」「キック力がある (正確にボールを蹴れる)」「パス廻しが上手い」といった能力が求められます。

フォワード、バックス、これらの中でもさらにポジションによって担う役割が異なります。

○基本のプレー

ラグビーは基本的に「走る」「投げる」「蹴る」といった動きで個人はボールをコントロールしますが、チームとして、数名で力を合わせてボールをコントロールする場合があります。そういったチームとして力を合わせて行うプレーや、防御に関する主なプレーについて以下に説明します。

・タックル

ボールを持っている相手プレーヤーに飛びかかり、そのプレーヤーを倒す、もしくはボールを地面に着けさせることを言います。相手プレーヤーを捕らえ、倒すという行為がタックルになりますので、このプレーには常に危険がつきまといまいます。そこで、タックルには禁止事項も多く定められています。

【禁止されているタックル】

・ハイタックル

肩より上へのタックル

・アーリータックル

相手プレーヤーがボールを持つ前のタックル

・レイトタックル

相手プレーヤーがボールを手放した後のタックル

・スティファームタックル

プロレスのラリアットのように相手の首に腕をひっかけて倒そうとするタックル

○スクラム

ボールを所持していたプレーヤーがボールを前に落としてしまったり (ノックオン)、ボールを前に投げてしまったり (スローフォワード)、軽い反則があった後に行われるプレーのリスタート方法です。

両チームのフォワード (FW) 8 人同士が組み合い、両チームが組み合った中間に、一方のチームのプレーヤー (スクラムハーフ) がボールを投げ入れます。投げ入れられたボールを、投げ入れたプレーヤーのいるチームが足で後ろにかきだし、スクラムを組んだ最後方のプレーヤー (ナンバーエイトやスクラムハーフ) がボールを取り出すことによってプレーが再開されます。

多くの場合は投げ入れたプレーヤーのいるチームのボールとなって再開されますが、相手チームの圧力が強かったりした場合は、ボールを奪われてしまうこともあります。なお、スクラムでは、組んだ状態のまま回転してはいけません。

○モール

ボールを持ったプレーヤーを中心に、両チーム合わせて 3 人以上が立った状態で、組み合った状態をモールと言います。ボールを持ったプレーヤーを中心に、攻めているチームのプレーヤーが力を合わせて押し込み、相手のディフェンスラインを崩すことをドライビングモールと言います。

モールへは、腰をかがめすぎない状態 (頭と肩は腰より上の位置) で、他のプレーヤーをしっかりと支える形で参加しないといけません。また、いったん組まれたモールを崩したり、モールの上に飛びかかるようなかたちで参加してはいけません。

○ラック

地面に転がっているボールを、両チーム合わせて 3 人以上が立った状態で組み合って奪い合う状態をラックと言います。ラックもモールと同様に、いったん組まれたラックを崩し

たり、ラックの上に飛びかかるようなかたちで参加してはいけません。

○ラインアウト

タッチラインの外にボールが出た時に、タッチラインに対して垂直に並んだ両チームのプレーヤーの間にボールを投げ入れ、ボールを奪い合うリスタートの方法です。

ボールを投げ入れるのは、ボールを蹴り出したチームと逆のチームが行います。(ペナルティキックで蹴り出された場合は、蹴り出した方のチームが投げ入れます)

ボールは両チームの中間地点に投げ入れなければならない、どちらかのチームに有利になるように投げ入れてはいけません。また、投げ入れるプレーヤーは、ラインアウトが形成される(両チームの選手が並ぶ)のを待たずに、すぐ投げ入れることも可能です。このプレーをクイックスローインと言います。

○してはいけないプレー

【その1：ミスに関する反則】

ラグビーはプレーヤー同士の激しい体のぶつかり合いがプレーの醍醐味でもあります。しかし、同時にこの激しいプレーは、常に怪我をする危険と隣り合わせです。そのため、ラグビーでは細かく反則行為が定められています。まずここでは、プレーをしている際に起きるミスなどに関する反則を説明します。

ノックオン

ボールを所持していたプレーヤーがボールを前に落としてしまったり、パスを受けようとしたプレーヤーが受け損なって前にボールを落としてしまうことを言います。相手ボールでのスクラムで再開します。

スローフォワード

ボールを前に投げてしまった場合の反則です。相手ボールでのスクラムで再開します。

ノットリリースザボール

タックルを受けて倒されたプレーヤーが、ボールを手放さなかった場合の反則です。タックルを受けたプレーヤーはプレーの続行が禁止されているので、ボールは速やかに手放さなければなりません。この反則を犯せば相手チームにペナルティキックが与えられます。

オフサイド

ボールを持っているプレーヤーより前にいるプレーヤーは、プレーに参加することが禁じられています。ボールに触れることはもちろん、ボールより前で相手チームの妨害をしたりすることも禁止されています。このように、ボールのある位置より前からプレーに参加した場合の反則を言い、相手チームにペナルティキックが与えられます。

オーバーザトップ

モールやラックになった状態で、相手側に倒れこんでボールが出るのを妨げる反則を言い、相手チームにペナルティキックが与えられます。

ピックアップ

スクラムやラックになった状態で、ボールを拾い上げてしまうことを言い、相手チームにペナルティキックが与えられます。

ノットストレート

スクラムやラインアウトの時に、ボールを投げ入れるプレーヤーが両チームの間にまっすぐ投げ入れなかった場合を言います。相手ボールでのスクラムで再開します。

【その2：不正な行為】

ミスに関する反則はプレーをしている上で仕方のないものですが、ラグビーでは故意に相手を傷つけたり、スポーツマンシップに背くような行為も残念ながら行われてしまうことがあります。これらの反則を総称し、不正な行為と言います。不正な行為は大きく4種類に分けられ、基本的にはペナルティキック、ペナルティトライなどの重い罰が課せられます。その中でもあまりにも悪質な反則行為に対しては、イエローカード(10分間の一時的退場：シンビン) レッドカード(退場)が出される場合もあります。これら不正な行為について、4つに分けて説明します。

妨害プレー

ボールを持っていないプレーヤーの前を、壁のように立ちふさがって進路を妨害したり、体やジャージなどをつかんで動きを妨げる行為などを言います。また、ボールを持っている味方プレーヤーの前を走ることも妨害プ

